

令和6年度大学図書館職員長期研修科目概要

1 研修概要

A 図書館マネジメント総論 7科目 (7コマ)

大学図書館を取り巻く経営的環境を把握するとともに、大学図書館マネジメントに関する知識を養う。

B 学術情報流通等各論 12科目 (12コマ)

学術情報に関する最新の知識を講義し、大学図書館サービスのあり方を考える。

C 演習・班別討議 15コマ

企画立案・遂行力、コミュニケーション能力の向上を図るための講義・演習を行い、班別討議、発表を通してその実践を行う。

※これに加えて、受講者による情報交換の時間を設ける。各自の課題や問題意識に基づき、他機関の情報収集や意見交換等を行う。

2 科目概要

A 図書館マネジメント総論

(1)大学経営の課題

大学図書館の活動は、あくまでも大学経営の一部として捉えられなければならない。大学図書館経営の背景となる大学経営について講義する。

(2)大学と大学図書館

大学や大学図書館を取り巻く現状や今後の方向性について、ステークホルダーとの関係や政策的視点から講義する。

(3)国立大学図書館の現状と課題

国立大学図書館の管理・運営を担う管理職の立場から、今日の大学図書館が抱えている重点課題を取り上げ、その解決に向けた取組みなどについて講義する。

(4)私立大学図書館の経営

私立大学図書館の経営について、アウトソーシング、予算獲得、サービスの展開等について事例をもとに実際の観点から講義する。

(5)大学評価と大学図書館

国・公・私立大学（短期大学を含む）は、7年以内ごとに、認証評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられている。その評価の実際と大学図書館がどのように評価に寄与すればよいのかを考える。

(6)大学図書館職員の新たな役割

日本及び海外大学図書館における図書館職員の役割、その特徴や問題点、今後の新たな役割や将来像、展望などについて講義する。

(7)図書館経営学

経営戦略やマーケティング等の経営学の基礎知識、また、それらを図書館に適用する場合の特性を講義し、大学図書館経営のあり方について考える。

B 学術情報流通等各論

(1)国立情報学研究所の取り組み

国立情報学研究所の推進する様々な事業の中から、大学図書館と関わりが深い、オープンアクセス・オープンサイエンス普及の取り組みや、これからの学術情報システム構築等について講義する。

(2)利用者の情報行動

情報行動論の基礎的知識、教員や学生の情報行動の具体例、情報行動に配慮した図書館サービスのあり方などについて講義する。

(3)学術コミュニケーションの動向

近年の電子情報資源への急速な移行や、機関リポジトリ、オープンサイエンス等の動向を踏まえ、今後の学術コミュニケーションのあり方や展望について講義する。

(4)大学図書館と研究支援

大学図書館は大学の研究活動にどのように貢献できるのか、学術情報流通の動向や海外の事例等から、その可能性を探る。

(5) 大学図書館に期待するもの

大学教員としての立場から、研究手法、研究資料の収集・活用方法、学生の指導方法等について述べると共に、大学教員が求める図書館、資料、図書館のあり方について講義する。

(6)大学図書館の学習支援

大学図書館の学習支援のあり方について、大学での学習の変化をふまえた上での情報リテラシー教育の検討、授業と図書館利用の関連付け、教員との連携などについて講義する。

(7)アクティブラーニングの手法

教育の現場では、アクティブラーニング（能動的学習）への転換が大きな話題となっている。実際にアクティブラーニングを体験し、その概略を知ることで、教員や学生への支援のあり方を考える。

(8) 誰もが利用しやすい図書館を目指して～障害のある学生・教職員への支援

図書館の資料・サービス・施設を利用することが障害等により困難な学生・教職員に対して、それらの障壁を取り除くにはどのような配慮をすべきか、制度面、実際面から講義し、誰もが利用しやすい図書館づくりについて考える。

(9)民間企業の取り組み

大学図書館運営に関連する民間企業等の最新の取り組みや、図書館運営の効率化、サービス向上の参考となる民間企業等の経営戦略・経営手法について講義する。

(10)新技術を活用した新たな図書館サービスの可能性

最新の情報通信技術を活用した新たな図書館サービスの事例を学ぶことにより、これからの時代の図書館サービスのあり方や可能性について考える。

(11)紙資料の劣化と保存

大学図書館における紙資料の保存方法や利用上必要な配慮などについて講義する。

(12)大学図書館と著作権

大学図書館活動に関する著作権法の基本的な考え方、また、インターネットの普及や学術情報流通の変化に伴う新たな動きと今後の方向性、展望などについて講義する。

C 演習・班別討議

1 演習

ワークショップ形式の演習を通して現状分析や企画書の作成に関する手法や知識を習得するとともにコミュニケーション力の強化を図り、環境変化に対応した新たな取り組みを企画・実践する力を身につける。

2 班別討議

将来的に大学図書館等の運営の中核を担うために必須となる広い視野を身につけることを目指し、大学図書館を取り巻く環境や期待される役割等の変化に対応するための取り組みについて討議する。具体的な取り組みの実践を念頭に討議を進めた上で全体発表を行い、複数の視点から講評を受ける。